

遺骨収集

硫黄島派遣団が23柱を送還

天山付近・南海岸付近で収容

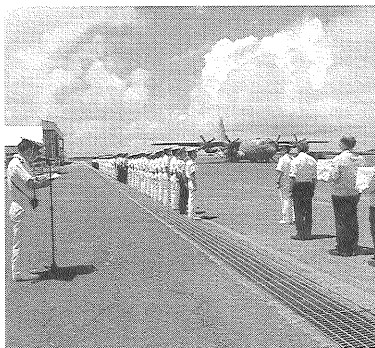
日本戦没者遺骨収集推進協会主催の硫黄島戦没者遺骨収集派遣(第2次)を実施し、神谷政幸厚生労働大臣政務官をはじめ遺族代表、国会議員、関係団体代表等が見守る中、収容された23柱の遺骨が派遣団員から厚生労働省へ引き渡された。

本年度2回目となる硫黄島戦没者遺骨収集派遣(第2次)は、昨年9月

の噴火による降灰の影響で、硫黄島では島内施設が被災し、燃料や水の供給に支障が生じるなど生活環境に被害を及ぼしているため、派遣団員の規模を第1次派遣に引き縮小して行われた。



壕内の土砂をふるいにかけ遺骨を捜索する派遣団員。8月26日、硫黄島で



離島の際に硫黄島基地自衛隊員から見送りを受ける派遣団員。9月3日、硫黄島で

団員はすべて手作業で地表や壕の土砂を丁寧に取り除き、細心の注意を払いながら遺骨の発見に努めた。

その結果、北部天山付近の地表7カ所と壕1カ所から8柱、南海岸付近の前回第1次派遣で発見した壕から15柱の遺骨を収容し、計23柱を確認した。収容した遺骨は内地へ送還され、9月4日小雨の中、千鳥ヶ淵戦没者墓

苑で厚生労働省へ引き渡された。派遣団はすべての任務を終え、解団した。硫黄島でのこれまでの収容遺骨数は1万820柱となり、戦没者概数約2万1900人に対する収容は依然として道半ばである。国の責務として、一柱でも多くの遺骨が一日も早く故郷へお迎えできるように、本会は今後の推進活動への派遣の遺骨収集、DNA鑑定用検体採取、現地調査派遣4次・遺骨収集第1次派遣は、9月9日〜9月24日16日間アンガウル島の集団埋葬地、埋葬者数358人、1柱収容。

モンゴル(フモンハン)事件、遺骨収集派遣7月28日〜8月12日16日間ハルハゴル村12柱収容。その他、パラオ諸島で現地調査派遣第3次は、8月22日〜9月6日、20柱相当の

16日間実施、ペリリュー島の集団埋葬地、埋葬者数1086人、30柱相当の遺骨収集、DNA鑑定用検体採取、現地調査派遣4次・遺骨収集第1次派遣は、9月9日〜9月24日16日間アンガウル島の集団埋葬地、埋葬者数358人、1柱収容。マリアナ諸島現地調査派遣第2次は、7月19日〜8月1日14日間サイパン島で実施、20柱相当の収容なし。

遺骨収容、現地調査派遣第4次は9月8日〜9月18日11日間ペリリュー島で4柱収容。ウォーレイ(メレヨ)

日本戦没者遺骨収集推進協会

相次いで実施

日本戦没者遺骨収集推進協会は7月から9月にかけ、海外の旧戦域で現地調査および遺骨収集派遣を相次いで実施した。本会からは8地域に11派遣、延べ13人が参加し各地域での遺骨収集活動に協力した。(別表参照)

ソロモン諸島現地調査派遣第1次7月22日〜8月12日22日間ソラギ島3柱、ガダルカナル島31柱、計34柱収容。

ビスマーク諸島現地調査派遣第1次7月25日〜8月12日19日間ニューブリテン州収容なし。

東部ニューギニア現地調査・遺骨収集派遣第2次7月29日〜8月12日15日間東セビック州で2柱

調査・遺骨収集派遣第2次7月29日〜8月12日15日間東セビック州で2柱

調査・遺骨収集派遣第2次7月29日〜8月12日15日間東セビック州で2柱

令和8年度 日本戦没者遺骨収集推進協会主催
現地調査・遺骨収集実施表

(海外)

派遣名	実施地域	実施期間	本会参加人数	収容柱数
マリアナ諸島 現地調査 第2次	サイパン島・グアム島	7月19日〜8月1日	2人	20柱
ソロモン諸島 現地調査 第1次	ガダルカナル島・ツラギ島・ニュージョージア島	7月22日〜8月12日	1人	34柱
ビスマーク諸島 現地調査 第1次	ニューブリテン島	7月25日〜8月12日	1人	-
モンゴル (ノモンハン事件) 遺骨収集	ハルハゴル村	7月28日〜8月12日	1人	12柱
東部ニューギニア 現地調査・遺骨収集 第2次	ウエワク・アイタバ	7月29日〜8月12日	1人	2柱
マリアナ諸島 現地調査 第3次	テニアン島	8月20日〜9月1日	中止	中止
パラオ諸島 現地調査 第3次	ペリリュー島	8月22日〜9月6日	1人	30柱
インドネシア 現地調査 第1次	モロタイ島	8月30日〜9月12日	1人	-
ウォーレイ(メレヨ)環礁 現地調査・遺骨収集	メレヨ環礁	9月1日〜9月9日	1人	10柱
マリアナ諸島 現地調査 第4次	テニアン島	9月8日〜9月18日	1人	4柱
パラオ諸島 現地調査第4次・遺骨収集 第1次	アンガウル島	9月9日〜9月24日	2人	1柱
ビスマーク諸島 現地調査 第2次	マヌス島・ブーゲンビル島	9月16日〜9月30日	1人	1柱

民間慰霊碑

海外で調査・移設事業を実施

インドネシア・フィリピンで

インドネシア(調査事業) 7月19日から27日の期間でジャワ島、スマトラ

タ、スラバヤ、マラン、ボゴールの慰霊碑6基、スマトラ島ではパレンバン、メダン、バンダ・ア

チェの慰霊碑21基、ウエー島ではサンパンの慰霊碑2基の維持管理状況を確認した。現地の総領事館、日本人会、地権者等により概ね適切に管理されているが、バンダ・アチエの1基、サンパンの1基がそれぞれ放置状態にあり、地権者である州



雑草が生い茂り放置状態の慰霊碑。7月25日、ウエー島サンパンで



戦闘があった山中に建立された慰霊碑。8月5日、パナイ島で

政府等と今後の対応について協議する必要がある。フィリピン(調査事業) 8月1日から7日の期間でセブ島、ネグロス島、リロアン、カルメンで6基、ネグロス島では、パナイ島に建立されている慰霊碑を調査した。セブ島ではセブ市内、リロアン、カルメンで6基、ネグロス島では、パナイ島に建立されている慰霊碑を調査した。セブ島ではセブ市内、リロアン、カルメンで6基、ネグロス島では、パナイ島に建立されている慰霊碑を調査した。



移設が完了した慰霊碑。8月27日、バリクパバンで

急に撤去を求められていた。事前にバリクパバン市文化教育局の承認許可を取り付けたうえで、現地の財団法人サクラバリンドの協力を得て、同団体が管理しているバリクパバン市ラマルの「南方方面戦没者慰霊碑」の敷地内にロアアから慰霊碑を移した。8月27日、田子内進在スラバヤ日本国総領事、バリクパバン市関係者等が参列し、慰霊碑移設慰霊式典を開催して、戦没者の冥福を祈った。式典後の協議では、市に対し永続的な慰霊碑の適切な管理を依頼した。

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されたい。本会にお問い合わせください。

ブロック語り部研修会始まる

第3・第2ブロックを開催

平和の語り部事業を共通議題とし、地域の慰霊、追悼などの課題を協議するブロック語り部研修会が始まった。本部は本会創立80周年となる次年度の事業計画を説明。今年度は、全国で2500回を目指し、学校、学童、追悼式、自治体等の協力を得た企画で重ねられた各地の取り組みを踏まえた次世代の育成の方途を提案。真剣な議論が交わされた様子を伝えたい。

○第3B (近畿東海北陸 三重県) 継続研修から学校へ(富山県) 追悼式での語り部講話(三重県) 作文コンクール

○第3B (近畿東海北陸 三重県) 継続研修から学校へ(富山県) 追悼式での語り部講話(三重県) 作文コンクール

○第3B (近畿東海北陸 三重県) 継続研修から学校へ(富山県) 追悼式での語り部講話(三重県) 作文コンクール

○第3B (近畿東海北陸 三重県) 継続研修から学校へ(富山県) 追悼式での語り部講話(三重県) 作文コンクール

○第3B (近畿東海北陸 三重県) 継続研修から学校へ(富山県) 追悼式での語り部講話(三重県) 作文コンクール

ブロック語り部大会

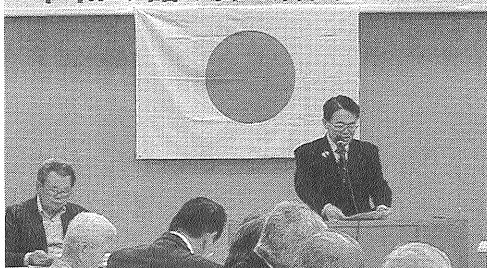
次世代、体験者が講話

語り部の育成を企図したブロック別語り部大会を開催。体験者、次世代の講話、取組を紹介。併せて動画を使用した効果的な学校講話、記憶継承動画の内容を提案した。

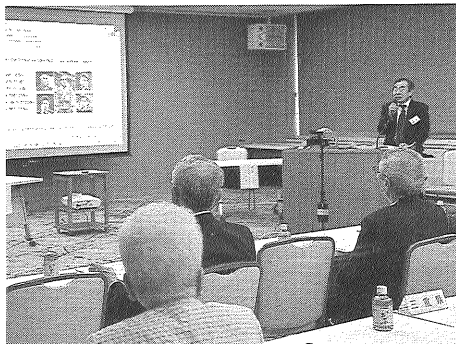
○第3B (9月9日)

近藤幸文愛知県副会長兼継承部長が次世代の取組を説明。講話、記念館、広報等、分科会を立上げ。誰もが語り部になれるよう体験者の記憶、朗読劇の導入部分を映像化。高校生による上演が

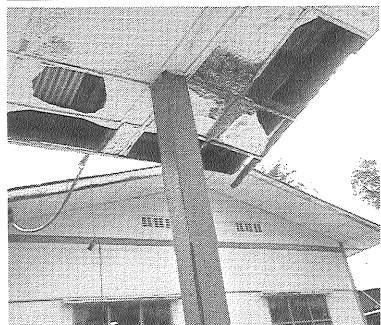
日本遺族会 第3ブロック 平和の語り部 研修会・大会



開催県の会長として遺族会活動の意義を伝える大村秀章愛知県知事 = 9月8日、名古屋市で



次世代継承部の取組を説明する近藤幸文愛知県副会長兼継承部長 = 9月9日、名古屋市で



老朽化した校舎と天井の経年劣化が著しい北オカラップ第14小学校 = 令和8年3月、ミャンマーで

大規模修繕は困難に

ミャンマー小学校修繕募金

日本遺族会は、平成11年度から3カ年計画で、修繕募金をお願いをして、ミャンマーに建設、寄贈した小学校3校の老朽化募金が寄せられている。

ミャンマー (旧ビルマ) 小学校修繕募金のお願い

日本遺族会ではミャンマー (旧ビルマ) に建設贈与した小学校の修繕費用の寄付を募っています。本会は平成11年度から3年計画で、北オカラップ第14小学校 (ヤンゴン郊外)、カドウィンチャン小学校 (バグー)、バンドウターズ小学校 (アキヤブ) の3校を竣工、贈与しましたが、建設から20数年が経過し、校舎等の老朽化が進んでいます。2021年の軍事クーデター以降、ミャンマー国内の政治情勢が不安定なため渡航が困難とされているなか、まずは治安が安定して、入城可能な北オカラップ第14小学校とカドウィンチャン小学校の2校の修繕等を予定しております。学校側の要望を聞き取り、現状を把握したうえで、壊れた校舎の修復など募った寄付金の使途、今後の支援について慎重に検討します。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

銀行名: 三井住友銀行 神田支店
口座番号: 当座預金 1015126
口座名: 一般財団法人 日本遺族会(ザイ) ニホンイクカイ

本会への 賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた

た左記の方々に、心よりお礼申し上げます。なお、賛助者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があります。省略します。

賛助者名 (敬称略・カタカナ名は銀行振込・漢字名は現金書留等)

岡野淑子 桑原茂樹 栗石賢一 豊蔵信夫 後藤寛 (以上、8月1日から8月末日まで)

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業等、さまざまな遺族会活動に利用させていただきます。

世代にいかん継承するか。学生への講話が鍵と示唆。開催地群馬県、高崎市遺族会事務局、青年部の全面協力で円滑な進行。

行政の理解を得ることで学生を巻き込んだ多様な企画が可能に。知事、首長へ直談判の機会を作り、語り部はもとより地域の慰霊、追悼を担う遺族会の重要性を示すことを共有認識した。講話者育成のための通年の研修機会を求められた。

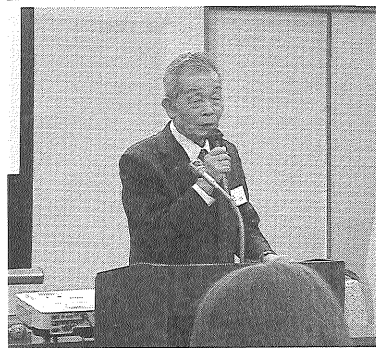
実現。追悼式後の資料展示、記念館資料の説明、護国神社内の慰霊碑のいわれの説明など。部員を増やし、平和を守る活動を重なる決意を語った。川合滋重副会長兼青年部長、昭和27年生まれの資格を活かし、低

学年児童へ遊びを交えた講話展開を説明。

山岸由紀子石川県副理事長兼女性部長、5歳で父を失い、6歳で家を焼く。子供供の間には許されず、昼夜間を歩く母を手伝い、就職、結婚を経て母を慰霊する。

戦争に父を奪われ、歯を食いしばり生き抜いた母や祖母、多くの人に支えられた自身の人生を語り継ぐ決意を語った。内容の理解を深める給は県事務局長川口瑞枝校長が手製アドバイザーの講評。

今堀治夫氏は地域の歴史を伝える重要性を地元滋賀県の取組を例に内容の理解を深める音楽、図画の重要性を示唆。3B選出今田勇雄事務理事は夫々の地域にあった悲し



記憶継承を担う遺族会活動の重要性を示唆する青木忠昭群馬県会長 = 9月18日、高崎市で

みえを伝えようと接した。

○第2B (9月18日) 青木忠昭群馬県会長の講話。父は20歳で歩兵十五連隊に入隊。北支で銃弾貫通、弾丸が体内に残る。帰国後役所で勤務中に赤紙を受け再度出征。バシー海峡で戦没と聞いてはいるが軍歴でも出港場所は不明。戦後遺族会結成時から参加。記憶の継承の重要性を訴えた。

増田幹夫静岡県会長。昭和22年生まれ、戦後米兵がチョコレートを配る。かすかな記憶が残る。戦後70年冊子制作に伴い、海軍予科訓練生だった父の体験の様子を伝え、父の訓練の様子を伝え、父の制服を展示し、中高生に同じ年齢の若者が戦場へと出征したと伝える。

武藤孝行東京都副会長。父戦死後、母の実家佐賀県伊万里市での暮らし。配給による食糧、物資不足。定年後、慰霊巡拝から遺骨収集へ協力。マッチ箱を掲げ、角度により見え方が異なる。双方の意見を受け入れ理解することが平和を維持すると訴えた。

アドバイザーの講評。

福居一夫氏は各地の取組に敬意。学年、自治体、時間により内容の考慮を。大石功氏は今出来ることを重ねる努力、成果を自治体へPR。久保秀義氏は戦後を知る次世代の講話に期待。資金は自治体からの協力は遺族会が惜しみなく伝え自治体との協働を訴えた。

